

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>施設独自の理念を掲げその中に、一人ひとりがその人らしい生活を住み慣れた地域の中で、生活出来るように掲げている。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>理念を毎日唱和し、日々の業務へ指針として意識を持てるようにしている。理念内容についても職員の意見を取り入れている。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>来園者の目に触れるように玄関に掲示している。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。</p>	<p>町内会や町役場に広報誌を配布し、地域の理解・協力を得ている。隣接のデイセンターでの催し物へ参加。介護者教室の開催により認知症の理解を得られる機会を持つ等、交流を持っている。前年度後半から町内会の会員になっている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>全職員で自己評価に取り組む事で、自らがホームの評価が出来、気づきや改善に繋がっている。</p>	
6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>毎日の活動状況、外部評価の取り組み等を報告し、頂いた助言・意見はサービスの質の向上に繋がっている。</p>	
7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>町内のサービス事業所の交流会へ参加、情報交換する事によりサービスの質の向上に努めている。町役場へ広報誌を配布する事により、サービスの現状を伝えている。</p>	
8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>町地域包括支援センター職員に講師となって頂き、勉強会を開催し学ぶ機会を持っている。又、個々に外部研修に参加している。</p>	<p>印 (取組んでいきたい項目)</p> <p>前回も同じであったが、制度が難しく理解が十分でないので研修会を開催したい。又、権利擁護や成年後見制度を利用する方が未だいない。</p>
9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>研修に参加した方が、後日施設内にて伝達研修を行い学習する。日常業務に於いても虐待しないサービスに努めている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
11	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
15	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>16 職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>馴染みの関係が崩れないように、最小限の人事異動としている。</p>		
<p>5. 人材の育成と支援</p>			
<p>17 職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修への参加、復命書の提出、伝達研修の開催等で学習の機会を設け、サービスの質の向上に努めている。</p>		
<p>18 同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域のグループホーム協会に加入し、交流や学習する機会を持っている。又、近隣のグループホームとの交流により、情報交換している。</p>		
<p>19 職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>法人全職員で親睦会を作り、定期的にレクリエーションを楽しんでいる。勤務にも勤務希望やリフレッシュ休暇が取れるようにしている。</p>		
<p>20 向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>研修へ参加出来る機会を設けている。職員の自己評価、面談を持ち勤務状況の把握に努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	<p>初期に築く本人、家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前、入居中の相談は勿論、退居になる場合でも安心して生活が継続出来るよう対話に努め、信頼関係を築いている。</p>	
22	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入居に関しては、速受け入れ可能な事が少ないので、入居申し込み予約をして頂き、待機中は必要と思われるサービスを紹介している。</p>	
23	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>家族からの情報収集により、本人が馴染めるような対応に心掛け、その人らしい生活へのサービスに努めている。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者の意志・意見を伺い、職員と一緒に食事を作ったり、菜園畑を耕したり行動を共にし、会話の中から互いに認め合い支え合えるように努めている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	月初めの手紙での状況報告や、面会時に日々の様子を伝える。又、体調変化時の対応、その後の状況報告もその都度行い家族と共に入居者の生活を支えていけるようにしている。		
26 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時等、入居者の生活状況や心身の状況を伝えると共に、家族からの情報も入手しお互いが情報を交換し、気づき・和やかな関係が出来ている。		
27 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの理美容の利用、かかりつけ医の受診など支援。会話の中から引きだし馴染みの場所へのドライブする等、慣れ親しんだ場所や関係を大切にしている。		
28 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個々の性格の把握に努め、余暇活動や趣味活動で入居者同士がより良い関係になるように努めている。		
29 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	何かしらの理由によって退去状況にあっても、継続的に相談に応じ、再入居も検討し継続的な繋がりを大切にしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人の意志、希望を可能な限り受け入れられるよう、利用者本位のサービスに努め個々を大切に受け止める事を優先している。</p>	
31	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居時の情報提供、家族、本人より情報を得る。又、入居前のサービス提供事業者等から情報を入手し、生活に混乱がないように支援している。</p>	
32	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>個々の生活状況の把握に努め、入居者同士がより良い関係になるように、状況に応じた支援が出来るように努めている。</p>	
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>3ヶ月ごとに見直しし計画作成時は、他介護職員の意見を聞き入れる。意志決定出来る入居者、家族の意見も出来るだけ伺い作成している。</p>	
34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的な見直しと、状態の変化時必要に応じ職員間で話し合い作成している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>35 個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個別の記録を作成、職員が情報を共有出来るようしている。実践結果を会議で検討し、介護計画へ活かしている。</p>		
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
<p>36 事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>多機能的なサービスは実践していない。</p>		
<p>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</p>			
<p>37 地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>外出行事等ではボランティアの協力を得たり、ふれ合い訪問(慰問)等を受け入れ文化的機関等と交流を持ち、協力しながら支援している。</p>		
<p>38 他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>地域の他介護支援専門員や他サービス事業者と、話し合いはしているが他サービスを利用したことはない。</p>		
<p>39 地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>運営推進会議の委員として地域包括支援センター職員が出席している。又、交流会議へ出席し情報交換等行っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者、家族等の希望により、入居前からのかかりつけ医の受診は継続している。場合によっては、往診して頂くこともある。		
41 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	主治医、かかりつけ医等に相談し、必要に応じ専門医への受診も行っている。		
42 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	主治医へ定期的に受診する。同敷地内にある同法人のデイセンターの看護師に、相談し支援を受け対応している。		
43 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院先へ面会に行き、状態の把握に努め、家族と共に情報を共有し、都度変化に対応出来ようとしている。		
44 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に話し合いを持っている、状態によっては主治医、家族と話し合い対応している。		
45 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化に対しては、求められるサービスが提供出来ない場合など、特養申し込みなど勧めている。終末期に関しては、主治医に相談し医療機関との連携も行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居者、家族、職員等関係機関で話し合い、情報交換することで不安にならないように支援している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
47 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	声かけに関して特に、トイレ誘導時、衣類の汚染時や洗濯等は、プライバシーが守れるように対応、記録時の名前はイニシャルで記入している。		
48 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	常に相手の目線になり、本人から気持ちを引き出せるような声かけや、意見を聞き利用者本位の生活が出来るように支援している。		
49 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを守りながら、その日にやってみたい事、行きたい所等を伺い、可能な限り実現出来るようにしている。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
50 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	かかりつけ理美容利用の対応、2ヶ月に1回の理美容の来園、季節感ある衣類等普段からオシャレに関心を持って頂いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者 と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食事メニューを紹介し興味を持って頂き、食べる楽しみを促すようにしている。食事の準備、後片付け等役割を持ち楽しみながら行えるよう支援している。	印 (取組んでいきたい項目)	年に1回は行事食でバイキン方式で行っているが、バイキング方式の回数を増やしたい。
52 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好み のものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽し めるよう支援している	嗜好食の対応、誕生日の希望食の対応し提供している。嚥下に関しては、咀嚼状況に合わせた調理をする等、個別に対応している。		
53 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力 や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄でき るよう支援している	排泄チェック表の作成により、排泄リズムの把握が出来トイレでの排泄が出来るように対応している		
54 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人 ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめる ように支援している	決まった時間帯ではあるが、個別対応でゆったり入浴出来る。入浴希望や入浴剤の使用でリラックスした入浴を楽しめる。		
55 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心 して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の休息、昼寝等自由である。ホールソファ席やテーブル席にて個々の生活スタイルで過ごして頂いている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
56 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人 ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴 らしの支援をしている	毎日に食前食後の手伝いの役割、縫い物等出来ることの楽しみの支援。ドライブ、散歩、ビデオ鑑賞などで気分転換を図れるよう生活の中に取り入れている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理出来る方は自己管理して頂き、職員と一緒に買い物に出かける等し、自由に使えるよう支援している。		
58 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候を観ながら、季節の花を見にドライブ、近隣を散歩、地域の行事へ出向いている。		
59 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節感のある場所へのドライブ等、外出行事を実施し出かける機会づくりを支援している。		
60 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話が設置してあり、自由に使用出来るようになっている。手紙などの代筆、投函依頼等も対応している。		
61 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会出来る時間は一応決まっているが、例外も受けつけている。面会場所は特に決めておらず、居室、ホールなどで談笑している。又、お茶なども提供し、ゆっくり出来るようにしている。		
(4)安心と安全を支える支援			
62 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしないことを基本としている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にセンサーを設置し、日中は施錠しなくても良い環境を作り安心に繋げている		
64 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員の声かけ目配りにて、常に所在確認を行い安心、安全の確保に努めている。		
65 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	嗜好品等の物品は、必要であれば使い慣れた品を持ち込んで頂き使用して頂いているが、バリアフリーの確保、転倒防止には配慮している。		
66 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒防止等の研修で学び、知識を習得する。ヒヤリハットの報告により、再発防止に努める。環境の整備を行い事故防止に取り組んでいる。		
67 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	普通救命救急講習を定期的に行い、全職員が救命法、応急法を繰り返し学んでいる。		
68 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難訓練を実施、入居者、職員が緊急時に対応出来るようにしている。地域の町内に災害時の救済をお願いしている。	印 (取組んでいきたい項目)	救済協力に関しては、協力体制が不十分であり、安全の確保に再検討が必要と思っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている</p> <p>入居時に説明しているが、状態の変化に伴って生活状態等説明しリスクに関して対応している。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
70	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p> <p>日々の介護業務の中で状態観察し、体調の変化時は速やかに医療機関、家族に連絡し対応している。又、朝のバイタル測定は必ず実施している。</p>		
71	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p> <p>服薬説明書は、職員が何時でもみれるようにファイルしてあり必要に応じて活用している。又、個人にあった服薬が出来るように主治医、薬局と相談している。</p>		
72	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p> <p>冷たい牛乳の飲用、腹部マッサージ、歩行等の運動による効果等で排便に繋げている。慢性の便秘の方は排泄表で確認し下剤服用にて対応している。</p>		
73	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p> <p>毎食後、口腔ケアの支援をしている。義歯、自歯、うがいの徹底の習慣化を図っている。</p>		
74	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p> <p>栄養士作成の献立にて調理、栄養摂取の確保に努め、個別の摂取形状に合わせて調理している。水分補給は、午前午後のお茶の時間と、毎食事お茶を配膳し摂って頂いている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症について看護師による研修会の開催。入居者、全職員がインフルエンザ予防接種を実施。毎食事、外出時の手洗い、うがい等の励行を実施している		
76 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎週1回冷蔵庫内の清掃の実施。毎日包丁、まな板、調理バサミ等の消毒の実施。毎日の食材の配達により、新鮮な食品での調理を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
77 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前には季節の花を植え、常に玄関先の清掃に努め誰でも出入りしやすい雰囲気作りを工夫している。		
78 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	遮光の強い場所にはブラインドで日差しを調整、明かりは間接照明で柔らかく、暖かさを感じられるようにしている。ホールには観葉植物を置き、落ち着いた居心地の場となっている。		
79 共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファを設置、共有スペースの中でテレビ視聴、ビデオ鑑賞、カラオケ等を楽しめる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>80</p> <p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>慣れ親しんだ品を居室内に持ち込み、本人の好みに合わせ所持品の設置場所を決め、安心して生活出来るように支援している。</p>		
<p>81</p> <p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>常時換気により空気の淀みはない。エアコン、パネルヒーター等で温度調整を行う。又、湿度計、温度計で入居者の身体状況から調節する。居室内も常に換気し、快適な生活の支援に努めている。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
<p>82</p> <p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>廊下、居室、トイレ、浴室等に手すりを設置している。介護用品使用にて、身体機能を活用し自立支援に繋げている。</p>		
<p>83</p> <p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>個々の身体的、精神的状況に合わせ、集団の中で個人を尊重し、安心した生活が送れるように支援している。</p>		
<p>84</p> <p>建物の活用</p> <p>建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>木造づくりの暖かさ、柔らかさ、吹き抜け天井の空間が開放感を保ち、廊下を利用しながら歩行訓練を実施する。</p>		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所に 印をつけてください)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・複数の事業所を持つ法人のグループホームで、各事業所の行事に参加する事が出来、地域の方々とのふれ合いの場が多い。 ・外出する際も車両の確保がやすく、ボランティアの協力も得られ広域に外出出来る。 ・栄養士作成の献立を取り入れ、栄養管理が行われている。又、毎日の食材の配達により、新鮮な食事を頂いている。 ・入居者、個々がその人らしく生活出来るよう本人、家族の安心・安全に努めている。 ・木造の建物、吹き抜けの天井、間接照明で柔らかく、明るく開放感のある中で日々生活できる。